

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) ユニットA】

事業所番号	0290100171		
法人名	医療法人 蛸慈会		
事業所名	グループホーム 港町		
所在地	青森市港町2丁目15-29		
自己評価作成日	令和3年7月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療機関であるため、往診の他、日・祝日、夜間を問わず、緊急時に即対応が可能である。医師、看護職員、介護職員が皆、同じ目標を掲げ、日々のケアを行っている。ターミナルケアも行っており、入居者に最期まで寄り添うケアを行っている。看板猫が認知症ケアの一役を担っており、入居者の心身のストレスを癒し、安全で楽しい時を過ごしている。地域の中でいきいきと！の理念のもと、地域交流にも力を入れており、地域の一員として、町内ねぶたや町内清掃等に参加している。施設の行事の際は地域住民を招待し、交流を図っている。入居者のできる事を最大限に引き出し、できない事は強要はせず、一人ひとりに合わせた「さりげないケア」を常に心掛けて取り組んでいる。職員は常に向上心を持ち、やりがいを感じながら、日々の職務に励んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体が医療法人であるため、緊急時の対応等、臨機応変に行われる体制である。また、運営推進会議のメンバーには近隣町内2つの会長が参加している他、コロナ禍前は町内行事に参加すると共に、施設行事にも地域住民を招待し、交流を行っている。
今回、外部評価を行ったのは管理者が交代した後だったが、職員からは「このメンバーで施設の土台を作っていきたい」という声が聞かれた。
総じて、医療法人であるメリットを活かした支援に取り組み、地域交流を丁寧に行いながら、職員が自発的に職務を行おうとするモチベーションの高さが感じられるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の数ヶ所に理念を提示し、地域の方々との関わりを意識しながら、日々、サービス提供を行っている。	管理者・職員は「地域の中で自分らしくいきいき」というホーム独自の理念のもと、日々の支援を行っている。また、理念はホーム内へ掲示したり、カンファレンスでも取り上げている他、職員皆に自己評価を書いてもらう際に理念も書いてもらう等、共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、関わり合いが今年に限り減少しているが、本来であれば、地域の町内ねぶたや清掃、声掛け訓練に積極的に参加し、地域の方々と交流を図っている。	町内会に加入している他、近隣の2つの町会長が運営推進会議のメンバーになっており、交流を図っている。コロナ禍の影響で、現在は近隣住民との交流は難しくなっているが、以前は町内の行事に参加したり、保育園や婦人会の訪問があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の職場体験等を積極的に受け入れ、認知症の理解やどのように携わっていけばいいのかを伝えている。見学者の来園時等にはプライバシーにも十分に配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では行事や日頃の様子等を報告し、ビデオ撮影したものをご覧になっていただくことで、報告した内容をより理解してもらえている。参加者の意見はサービスの向上に役立っている。	近隣の同系列の特別養護老人ホームと合同で、運営推進会議を開催している。コロナ禍のため、現在は書面で開催しており、書類に意見や助言の欄を設け、返信していただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの職員が必ず参加している。市へは会議で用いた書類を提出し、現場の状況を伝えている。必要に応じて、電話報告も行っている。	運営推進会議には毎回、地域包括支援センター職員が参加しており、ホームのパンフレットや広報誌等を配布している。市へは、自己評価及び外部評価票や目標達成計画を提出している。また、コロナウイルス等に関する情報提供がある他、避難計画書について問い合わせる等、適宜行政と連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設では身体拘束を行っていない。外部研修や内部研修に参加することによって、職員一人ひとりが自覚を持ち、身体拘束ゼロを目標に、日々実践している。	身体拘束のマニュアルを作成し、年2回、内部研修を行っている他、身体拘束適正化検討委員会も開催している。また、やむを得ず身体拘束を行う場合は、その理由や方法、期間、経過観察等について記録を残す体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、外部研修に参加しており、そこで得た知識をすぐに職場内の研修会で周知し、職員全員が学べるように取り組んでいる。職員間でもお互いに注意し合える環境作りを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、講義で覚えた事を内部研修で行い、職員が理解できるように努めている。家族から相談を受けた時は、内容に即して対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には本人や家族の希望を伺い、書面で説明も行っている。質疑にも丁寧に返答し、納得を得てから話を展開していくように心掛けている。退去時には入居先の事業所と連絡を取り合い、円滑に進むように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を伺う意見箱の設置の他、意見を出しやすい環境作りを心掛けている。毎月、家族への手紙を担当者が書いており、家族の意見や要望を伺う欄を設けている。	ホーム内に意見箱を設置している他、毎月、個別にコメント欄を設けたお便りを送付し、家族等の意見の把握に努めている。職員は利用者にゆっくと話しかけたり、個々にホワイトボードで筆談をする等、不満や意見等を察するように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは逐一、要望や報告、相談等を受け付けている。緊急時以外は職員全員で検討し、決まった事にはチームケアで取り組んでいる。	職員からの意見は随時、カンファレンス等で聞いている他、利用者の受入れについても、事前に情報共有をしている。また、勤務体制については、職員の意見を聞きながら休暇等を設定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者からの報告や現場に出向くことで、職員の状況の把握に努めている。資格の取得を勧め、応援する環境を整えている。また、職務評価を基に向上心を持ってよう、働き方改革を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成しており、職員の力量や要望に合わせ、研修に参加してもらっている。研修で学んだ事を内部研修で職員全員に周知する環境にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加し、同業者との情報交換や意見交換を行い、質の向上に役立っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時に本人や家族に直接会い、要望やニーズ等を伺って把握に努めている。入居後もより良い環境で過ごしてもらえるよう、家族や本人との信頼関係を早い段階から築くことを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず本人や家族と面会し、入居後にどのような暮らしをしたいのか等を伺い、親身になって寄り添いながら、家族の気持ちを知り、良好な関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活歴や習慣等の情報を事前に伺うことにより、今までとあまり変わらずに生活できるように心掛けている。本人の希望や家族の意見等には迅速に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	軽作業等を職員と一緒に出来るように支援しており、協力しながら行うことにより、入居者とは良い関係を築いている。共有する時間がとても大切であると思い、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族にとって何が一番良いのか常に考えながら、家族には提案や相談等をして、入居者に良いケアができるよう、且つ家族が疎遠にならないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた店や理美容院、本人と関わりのある方等との関係を継続できるように努めている。	入居申し込み時に本人や家族に直接会い、利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所等の把握に努めている。手紙が届いた際は、利用者が書いた返事に切手を貼って投函している他、コロナ禍前は、利用者の希望に応じて自宅周辺をドライブする等、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が楽しんで行えるよう、レクリエーションの時間を作り、孤立しないように努めている。また、入居者同士が良い関係性を作れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了して退所された後も相談等に応じることもあり、サービス利用時と変わらない関係性を続けていけるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の日常会話や家族の情報により、意向の把握に努めている。難聴の入居者にはジェスチャーや筆談を交え、意向の把握に努めている。	職員は日常の会話や生活の様子から、利用者の思いや希望、意向の把握に努めている。利用者の意向が十分に把握できない場合には、筆談や聞こえる距離で話す等、配慮している他、必要に応じて、家族や関係者等から情報収集を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報保護を加味しながら、本人や家族、親類や知人が面会に来られた時に、様々な情報を得ている。また、普段から、これまでの生活環境に関係していないか、把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個々にリズムがあるため、その時に合わせた過ごし方を支援している。入居者のできる事、できない事の把握の他、必要に応じて、排泄、睡眠、水分量のチェックをし、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回カンファレンスを行い、本人や家族の意向を反映させて熟考し、細かな介護計画を作成している。身体状況等に変化があれば、随時見直しを行っている。	日常の会話の中で利用者の希望や意見を聞き取り、言葉に表せない利用者に対しても工夫しながら意見を聞き、介護計画に反映させている。介護計画はカンファレンスの内容を基に、家族の意見も踏まえて話し合い、作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録にその日の様子や身体状況、言動、ケアに対する反応等を細かく記録することによって、より良いケアができるように努めている。情報は職員全員が共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師や医師と連携し、病状によって、精密検査や救急搬送が必要かの判断等、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人及び家族の要望に応じて、訪問理美容を利用している。町内ねぶたに入居者と一緒に参加することで、地域住民との交流にも繋がっている。また、町内清掃にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療機関のため、定期的に往診を受けられるというメリットから、当法人の医療機関に主治医を変更されている。また、専門的な医師の受診が必要な場合にも、できる限りの支援を行っている。	入居時のアセスメントで、利用者のこれまでの受療状況を把握している。基本的には利用者が希望する医療機関を受診できるように支援しているが、経営母体が医療機関ということもあり、法人の医療機関に変わる方も多い。また、歯科・眼科は家族の協力のもと、受診できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態に変化が見られた場合は、すぐに母体法人の看護師に報告している。必要に応じて、医師の往診もある他、定期的に、看護師が入居者の健康状態の把握のために来所している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合は、面会したり、入院先のワーカーや家族と綿密に連絡を取ることで、状態把握や退院に向けての今後の方針等の確認を行っている。また、早期退院に向けた支援体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りの方針を定めている。医師、看護師、介護職員が協力し、入居者と家族を支援する体制を整えている。看取りの状態の時も、その都度より良いケアができるよう、密に話し合っ対応している。	「重度化した場合における対応に関する指針」や「看取りに関する指針」があり、ホームの方針を明確にしている。経営母体の医療機関とは、24時間の連携体制を整えており、利用者や家族の意向を踏まえた上で、医療機関や家族と連携を図りながら支援していく体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成、整備している。定期的に内部研修を行い、全職員が勉強することにより、緊急時に即座の対応ができるように心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間を想定した火災による避難訓練を行っている。マニュアルも整備しており、非常食の確保、停電対策も行っている。定期的に消防点検も行っている。	具体的な避難誘導策を作成しており、いざという時に適切な避難誘導が行えるよう、職員と利用者が一緒に、定期的に訓練を行っている。また、災害時の連絡一覧を作成し、消防署に避難計画を提出している他、災害発生時に備えて、食料等の備蓄も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言動や行動等は個々によって様々な思いがあるため、否定することはせず、傾聴、共感することで、入居者の思いを汲み取っている。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、傾聴して、言動を否定や拒否することがないように努めており、年長者と接する上での常識的な呼びかけを行っている。また、職員は入職時に誓約書を提出しており、守秘義務や個人情報取扱い等に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いをすることはなく、入居者本人の自己決定を尊重することができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者には自分のペースで過ごしていただくように支援している。自己表現が難しい入居者は、色々な情報を活用し、その人に合った支援をするように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、散髪の際に本人の要望を聞く等して、好みの髪形にってもらっている。着替えの際は衣類を選んでもらい、その人らしい着こなしができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年1回、入居者の嗜好調査を行い、毎日の食事作りに活用している。当法人の理事長が週2回市場に出向き、旬の食材や刺身を調達しており、入居者にも大変好評である。	嗜好調査を行い、利用者の希望や好み、苦手なもの、形状にも配慮して食事を提供している。週2回、理事長が市場へ行って食材を調達し、鮭やサーモン、烏賊等の生ものも提供している。また、利用者の状況や意思に応じて、皮むきや食器のすすぎ洗い、茶碗拭き等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み、荒刻み、極刻み、ミキサー食等、入居者に合わせ、食事を提供している。糖尿病等の疾患を持った入居者にも食事形態を工夫し、バランスの良い食事が摂れるように心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはホールで行うことにより、職員の目が行き届き、自力で磨くのが困難な入居者には職員が介助することで、口腔状態を清潔に保っている。義歯は毎日の夕食後に預かり、消毒をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を記入することにより、個々の排泄パターンの把握に努めている。排泄間隔が空いた時は、さりげなく職員から声掛けを行い、排泄の自立支援に努めている。	一人ひとりの排泄パターンを記録・把握している。排泄の訴えがあっても立位保持が難しい利用者には、2人介助によりトイレで排泄ができるようにする等、臨機応変に自立への支援を行っている。また、随時、おむつやパット、リハビリパンツの見直しを検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に乳製品の飲用、飲食を推奨している。毎日の献立には食物繊維を多く含んだ食材を取り入れるよう、工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入居者の入浴日は決めずに、一人ひとりの入浴習慣や好みを把握し、お湯の温度や入浴剤等を利用して、入浴を楽しめるように支援している。また、入居者の身体機能に合わせ、リフト浴も行っている。	利用者の入浴習慣や好みを把握し、意向や心身状況に応じた対応を行っている。基本的に週2回は入浴してもらっているが、希望に合わせて入浴できる体制を整えており、週3回入浴する方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握し、その日の身体状態や本人の要望等を取り入れ、適度に休息を取ってもらっている。日中、レクリエーションや体操をすることにより、夜間安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお薬情報のファイルがあり、いつでも確認できる状態である。服薬の際、個々のお薬を職員同士で確認することにより、誤薬防止に努めている。服薬して体調に異変が見られた場合は、即座に医師に報告し、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に個々の生活歴やできる事、できない事の把握に努めている。天気の良い日はウッドデッキに出て、菜園やプランターの花等を鑑賞し、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	只今はコロナ禍のため、外出支援はほとんどできていない。	天気の良い日にはウッドデッキに出て、菜園やプランターの花等を観賞し、利用者の気分転換を図っている。また、コロナ禍前は桜や紅葉等を見に行ったり、利用者の希望が叶えられるよう、家族と一緒に食事等にも出かけていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のお小遣いは、事務所で管理しており、使いたい時は、いつでも使えるように支援している。外出先で買い物した際は、本人に支払いをしていただく機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等のやり取りができるよう、施設としては取り組んでいる。耳が遠い方等は職員が代行し、思いを伝えるように支援している。個人情報保護の観点から、電話は各居室で行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは心地の良い空間作りに配慮し、テレビの音の高さ、太陽光、室温、湿度、空気の浄化等、入居者が過ごしやすい環境作りを心掛けている。ホールの壁紙等、季節を感じてもらえるように工夫している。	ホームの建物は手摺りが至る所に設置されており、安全面に配慮されている。日射しはカーテンで調節し、照明等も使用して、適度な明るさを保っている。また、冬季は床暖房とオイルヒーター、夏季はエアコンと扇風機を使用し、ホールや各居室に温・湿度計を設置して、適切な温度・湿度が保たれるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには椅子やソファ、テーブル、テレビがあり、気軽に仲間達と一緒に過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前から使っていた本人の馴染みの物を置き、慣れ親しんだ物に囲まれながら、過ごしやすい環境となっている。居室作りは入居者と一緒ができるように支援している。	入居前から使用していた物や馴染みの物等を持って来てもらうよう、家族に働きかけており、位牌や写真等が置かれている居室もある。また、持ち込みが少ない場合は、誕生日のメッセージカードや行事で作成した物を飾る等して、一人ひとりに合った居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、手すりは至る所に設置されている。車いすでも使用できるよう、洗面所の高さも工夫している。また、個々の居室がわかりやすいよう、手作りの表札を設置する等、工夫している。		